

# 近世の実像を求めて 史料の語る近世岡山

日時

平成29年12月2日(土)

13時～16時 (開場12時30分)

## プログラム

- 12:30 開場
- 13:00 開会
- 13:03 全体説明
- 13:15 発表1 発表順は未定です
- 13:55 発表2
- 14:35 休憩
- 14:45 発表3
- 15:25 ディスカッション
- 16:00 閉会

会場

岡山県立美術館

2階ホール

(定員200人)

入場無料

(入場整理券が必要)

応募締切

11月24日(金)

主催 (公財) 岡山県郷土文化財団  
共催 岡山県 後援 山陽新聞社

「村の記録と向きあう

和気郡豪農大森家の系図調査より」

森元純一 [和気町歴史民俗資料館職員]

「倉敷の町と大橋家一族」

山本太郎 [倉敷市総務局総務部副参事 (歴史資料整備室担当)]

「武家社会に生きる

一津山藩松平家文書の武士たち一」

尾島 治 [津山郷土博物館館長]

郷土岡山には岡山藩・津山藩などの藩政史料だけでなく、農村に伝えられた古文書、あるいは倉敷などの町場に伝わる多彩な歴史資料があります。それらを通じて、江戸時代の社会・文化・経済のあり方に肉迫することが可能です。おかやま文化フォーラム近世編では、江戸時代の岡山地域の社会の動向や経済・文化を多角的にとらえて歴史を考えます。

## 発表 ☆発表順は未定です☆

### 「村の記録と向きあう 和気郡豪農大森家の系図調査より」



森元純一 [和気町歴史民俗資料館職員]

和気郡尺所村の大國家（近世には大森）には、膨大な古文書が残されている。近世も後期になって大森家は、自身の系図を作成して子孫に残したが、膨大な古文書をひもとくと、どのように調査して系図は確定されたのか、その詳細が判明して興味深い。その背景には、近世の村社会が、必然的に豊富な種類の古文書を持っていたことがある。ここでは、大森家の系図調査を通して、そのような豊かな古文書世界を再確認したい。

### 「倉敷の町と大橋家一族」



山本太郎 [倉敷市総務局総務部副参事（歴史資料整備室担当）]

江戸時代には備中国窪屋郡倉敷村は、幕府代官陣屋が置かれた陣屋元村として町場が発達した。在町倉敷には、周辺農村から多くの人々が流入した。ここでは、倉敷村の豪農商として知られる大橋家を取り上げ、大橋家が倉敷の町場へ移住して力をつけた歴史的経緯や、代官役所支配にも地域の成り立ちにも不可欠な役割を果たしながら、近代における名望家へとつながっていく過程を史料から跡付けてみたい。

### 「武家社会に生きる ー津山藩松平家文書の武士たちー」



尾島 治 [津山郷土博物館館長]

江戸時代の武士は、揶揄的にサラリーマン武士とも称されている如く、その多くは日々の勤務に励みながら、それぞれの家の格式に縛られた中で、ささやかな出世を願って生きていた。そんな彼らの実際の暮らしや誇りや鬱憤が、今に伝えられる膨大な古文書の中に隠されている。また、大名自身も家を守るため、幕府役人を相手に奮闘していた。ここでは、ステレオタイプの武士像ではない彼らの現実を、生の史料から汲み取っていききたい。

## ディスカッション



全体説明・司会 倉地 克直 [岡山大学特命教授]

パネラー 森元純一 山本太郎 尾島 治

近世は今の暮らしに直接つながる社会の基盤が築かれた時代でもある。その動向は、記録された文書によって人々がどう考え、どう動いたかを知ることができる。今回は、史料の重要性と保存のあり方も含めて考えたい。

### お問い合わせ・お申し込み先

「文化フォーラム申込み」の旨と、複数でお申し込みの場合は代表者の①住所②氏名③複数の場合は参加人数を電話・ファクス・メールでお知らせください。申込み締切後に代表者の方に整理券を発送します。申込み多数の場合は抽選になります。定員に達しない場合は締切後も受け付けます（締切後は先着順）。

申込み締切 平成29年11月24日（金）

〒700-0822 岡山市北区表町 1-7-15 702 岡山県郷土文化財団  
電話 (086) 233-2505 FAX (086) 232-4329 Eメール o-bunka@utopia.ocn.ne.jp